

キワニス賞にセイハロー・ワカヤマ

「明るく楽しい性教育」広め

和歌山市などで「明るく楽しい性教育」を広める活動を展開しているグループ「SAYHELLO.WAKAYAMA(セイハロー・ワカヤマ)」(同市)が、社会奉仕団体「和歌山キワニスクラブ」(坂本暁史会長、70人)が贈る第29回「キワニス賞」に選ばれ、22日、同市のホテルアパローム紀の国で表彰式が行われた。



「キワニス賞」を受賞した「セイハロー・ワカヤマ」の(左から)布目あぐりさん、山浦理恵さん、真砂真弥さん、児玉里枝さん。和歌山市

同賞は、子供たちのための社会貢献活動に献身的に取り組む個人・団体をたたえ、支援しようと、和歌山キワニスクラブが毎年選考し、表彰している。

セイハロー・ワカヤマは代表の山浦理恵さん(42)、布目あぐりさん(38)、真砂真弥さん(36)、児玉里枝さん(38)の計4人で構成。いずれも子育て中の母親で、学校でも家庭でも教えるのが難しいとされる「性」について子供たちに正しく教育することが必要と、令和2年に活動を始めた。

小学1〜3年生とその保護者を対象にした「いのちのおはなし会」、小学4〜6年生とその保護者を対象にした「思春期のおはなし会」を開催するなど、子供の年齢に合わせて、親子で性について学ぶ機会を同市内などで提供している。

話をするだけでなく、赤ちゃんの人形や妊婦ジャケットなどを使って参加者に模擬体験してもらったり、講座後に参加者にアンケート

トを行って次回以降の参考にした。さきまに工夫を凝らす。布目さんと真砂さんは助産師資格を持っており、専門知識も生かして、子供や保護者の性への疑問や悩みの解決などにも一役買っている。

表彰式では、山浦さんに和歌山キワニスクラブの坂本会長から表彰状などが贈られた。山浦さんは「性教育は命、体、健康を学ぶ大切なもの。より多くの人に関心を広げていきたい」と話していた。